

令和6年度データサイエンスリテラシー

外部評価報告書

1. カリキュラムについて

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、応用基礎レベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの内容を教育しているかについて、各区分で受講生が多かった次の科目のシラバスを点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I
- 区分 A：データサイエンス総論 II
- 区分 B：基礎数理 B
- 区分 C：情報社会論
- 区分 D：データサイエンス基礎演習

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの学修内容を含んでいることが確認できた。しかしながら、数学・統計の内容が専門的なため、文系学生が当該プログラムを履修するのは難しいように感じられる。文系学生が当該プログラムを履修できるように数学・統計の内容を中心にカリキュラムの見直しを検討いただきたい。

2. 履修状況について

新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、当該プログラムの修了者数は 69 人である。また、履修者も理学部と工学部の学生がほとんどである。当該プログラムの履修者が少ない要因の一つに、「1. カリキュラムについて」で記載したとおり、カリキュラム内容の難しさが考えられる。併せて学生視点でどのカリキュラムを履修すればよいか選択肢が多く判断する際の難しさも考えられる。当該プログラムの履修者を増やすためにもカリキュラムの見直しを検討いただきたい。

3. 授業評価アンケートの結果について

次の科目の授業評価アンケート結果を点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I：18 科目
- 区分 A：データサイエンス総論 II：15 科目
- 区分 B：基礎数理 B：5 科目
- 区分 C：情報社会論：1 科目
- 区分 D：データサイエンス基礎演習：26 科目

ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。

さらに、データサイエンス基礎演習では「他の学生との議論や協働作業に積極的に取り組みましたか」の設問に対する評価が高かった。一方、「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。このため、担当教員間で授業方法の情報共有を行い、授業改善を進めていただきたい。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の応用基礎レベルの内容を含んでいることが確認できた。今後、当該プログラムを履修する学生を増やすように努めていただきたい。また、多くの文系学生が当該プログラムを履修できるようにカリキュラムの内容を見直していただきたい。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム外部評価委員会